

1-6. パラグラフ・ライティング～(パラグラフ間の接続)

パラグラフとパラグラフを接続して、文章全体を書くための基本を学習しましょう。

③パラグラフを接続する

(1) パラグラフのつながりをつくるのはアウトライン

パラグラフ内部でのセンテンスとセンテンスのつながりと同様に、文章中におけるパラグラフどうしにもセンテンスとセンテンスの関係とまったく同じような構造が必要です。

以下にはバオバブのアフリカでの重要性についてという題名の文章の各パラグラフのトピック・センテンスを抜き出したものです。これらに違和感がありますか？ある・ないに○をつけて、違和感があればその部分を抜き出してみましょう。

「バオバブはアフリカで多目的に使われている。」
「バオバブはアフリカの神話によく登場する。」
「バオバブはオーストラリアの神話にも出てくる。」
「バオバブを切ることはアフリカではタブーである。」
「アフリカではバオバブを現在でも植えている。」

違和感が（ある・ない）	違和感があるのは「 」
-------------	----------------------------

このように、各パラグラフのトピックだけを抜き出して並べたものをアウトラインと呼びます。長い文章でもアウトラインに注目して読めば、その文章の概要が分かるようになっています。

今回のアウトラインでは、【
】のことを述べているパラグラフが文の題名と合わず、不必要な情報になっています。

こうした論文の主題から外れるパラグラフは取り除かなければなりません。論文の読み手の思考は、主題とは外れたパラグラフのところで、一回切れてしまいますから、読み手の理解の助けにならないばかりか、かえって邪魔をしてしまいます。

(2) パラグラフをつなぐ

複数のパラグラフが並ぶ場合、パラグラフどうしをスムーズにつなぐために主語を繰り返したり、適切な接続詞や指示代名詞を入れたりして、パラグラフどうしのつながりを明確にします。

下の文章中の「この用途」が何を指しているか考えてみよう。

バオバブは多目的に使われる木である。西アフリカでは、現地の人たちがバオバブの皮をはいでロープにしている。またバオバブの葉は食用となり、緑色のソースを作るのに使われている。そして、実は種子の周りについた部分を水に溶かし、砂糖を加えて飲み物を作るのに使われている。

この用途はビタミンが不足しがちな農村部では重要である。アフリカでは、野菜栽培は一般化しておらず、灌水（かんすい）ができる恵まれたところに限られている。さらに野菜は都市部に供給するための、換金作物として作られている場合が多く、農村部の人々の口にはなかなか入ることがない。このため全般的にビタミンの摂取が不足しており、バオバブがビタミンの供給源となっている。

文中に出てくる「これ」や「それ」が何を指しているのかがわかりにくい文章は、論文・レポートの文章としては悪文です。今回の文章では、その後の文章を読んでもソースなのか飲み物なのかを判断することはできません。

一番簡単な対策は指示代名詞を使わないことです。見た目には同じ言葉の繰り返しになり、文章としては若干しつこくなるかもしれませんが、しかし、意味を明確にする、誤解を受けないようにするという点ではとても重要です。

例えば以下の文章では「この用途」を使っていないので、対象が明確になっています。

バオバブは多目的に使われる木である。西アフリカでは、現地の人たちがバオバブの皮をはいでロープにしている。またバオバブの葉は食用となり、緑色のソースを作るのに使われている。そして、実は種子の周りについた部分を水に溶かし、砂糖を加えて飲み物を作るのに使われている。

バオバブの葉のソースは、ビタミンが不足しがちな農村部では重要である。アフリカでは、野菜栽培は一般化しておらず、灌水（かんすい）ができる恵まれたところに限られている。さらに野菜は都市部に供給するための、換金作物として作られている場合が多く、農村部の人々の口にはなかなか入ることがない。このため全般的にビタミンの摂取が不足しており、バオバブがビタミンの供給源となっている。

(3) 接続語を活用する

センテンスとセンテンス、あるいはパラグラフとパラグラフをつなぐために使うのが接続語（英語では signal words）です。接続語をうまく使えば文章は非常に読みやすくなります。逆に使い方を誤ると、読み手にとって読みにくく、説得力の低い文章になります。

「しかし」など、一般的に転意のために用いられる言葉を接続語として多用すると、話の流れが途切れ、トピック・論点が非常にわかりにくくなります。日本人の文章は「しかし」が多用されているものが目につき、文章の流れを損ねています。

④オピニオン・エッセイの組み立て

オピニオン・エッセイも論文と同じように、「序論」(Introduction)、「本論」(Body Paragraphs)、「結論」(Conclusion)の3部構成で組み立てましょう。それぞれの部分を作成するときのポイントを以下に示します。

（１）序論（Introduction）

文章の冒頭（「序論」の最初）には、読者の興味をひく**導入文**（Hook）をおき、読者の心をつかみましよう。逸話（一般にあまり知られていない興味深い話）や問いかけ、読者にもっと知りたいと思わせる意外な発言や事実などが、導入文として効果的です。

・導入文に続く文では**背景**にある情報について述べ、読者になぜこの問題が重要なのかを説明します。背景の部分では、歴史や関わりのある人物、その人物が成し遂げたかったことや、どのようにして彼らを魅了したか等の情報を提示するとよいでしょう。

・「序論」の最後の文では、**文章全体において最も主張したい意見（論旨）を述べます。**

＊オピニオン・エッセイでは最初に結論を示してしまうと少し退屈な文章になってしまうので、例外的に導入文から始めます。したがって、「序論」では「論旨」がトピック・センテンスも兼ね、通常パラグラフの最後に置かれます。

（２）本論（Body Paragraphs）

・「本論」は論旨を発展させる複数のパラグラフで構成します。

・「本論」のパラグラフは基本通りトピック・センテンスから始め、その後にサポーティング・センテンス、コンクルーディング・センテンスと続けましょう。

・サポーティング・センテンスで、理由や事実・詳細の説明などによってトピック・センテンスをサポートし、書き手の意見を読者が容易に理解できるようにしましょう。

・「本論」の最後のパラグラフでは、**反対意見（反論）を紹介**するトピック・センテンスを立てましょう。そして、さらに**その反対意見に対する反論**を述べます。このパラグラフでは、反対意見の弱点を指摘するとともに、自らの意見のほうが有力であることを示しましょう。

（３）結論（Conclusion）

・「結論」では書き手の意見を、論旨とは異なる表現や、より説得力のある言葉で再び述べます。

・「結論」の部分には、予測や警告、書き手の意見を補強するその他の論評などを書くこともできます。

オピニオン・エッセイの例

宇宙開発と私たちの暮らし

